

高松宮兩殿下を迎へ奉りて

倉敷天文臺 水 野 千 里 謹記

前 記

高松宮兩殿下が、岡山縣下産業御視察の爲め行啓になり、六月二日から四日迄、縣下各地の産業状態に、吉備津神社に、或は高松農學校で豊臣秀吉の水攻めで名高い高松城址に就いての御説明を聴し召され、倉敷天文臺へも、御成りになつて無上の光榮に浴したのであります。

五月二十八日附で原名譽臺長から、兩殿下が倉敷天文臺へ、六月三日午後二時から三時迄の間、約十分間御成りになる旨、岡山縣廳から内命が有りましたから、打合せしたいとの御通知がありましたので、二十九日朝、倉敷に参り、種々行啓の事に就いて承り、山本臺長に御來倉を願ふこと、又荒木健兒氏とも諸種準備のことを相談しました。

三十日夜山本博士から、倉敷天文臺は設備萬端不完全の故を以て御辭退申上げては如何と電報が來ました。

三十一日朝、倉敷へ電話で、原名譽臺長に山本博士の御意向を傳へましたところ、一應は御辭退申上げたのでありますが、縣の方から御受けせよとのことでありますから、この旨山本博士に返事する様にと申されましたので早速電報で御知らせしましたところ、「スゴイ」といふ電報が來ましたので、私は午後四時四十二分岡山驛發、午後九時十八分京都驛に着き、山本博士夫人の出迎へに恐縮し、山本博士宅で諸準備に就いて協議し、諸品の献上手續きをなすこと、機械、星圖、寫眞等陳列品の件、天文臺沿革、機械、事業等に関する説明書を掲示すること、其他を定めました。

六月一日午後一時京都驛發、倉敷驛に下車、原名譽臺長の許に京都で打合せました件の報告に参りましたが、上阪中で御歸宅は遅くなるとの事でありましたから、要件を荒木健兒氏から傳へて貰ふことにして歸宅しました。

六月二日早朝岡山縣廳で健康診斷を受け、倉敷天文臺に参りましたら、掃除出來上り、觀測室の南には隨行者諸氏の休憩所に充てる爲めにテントが張られ面目を一新して居ました。

午後十時三十分倉敷驛着で山本博士と稻葉理學士が來着されましたので、天文臺陳列其の他の打合せを致し、吉井旅館に一泊しました。

六月三日午前八時から陳列に取掛り、正午には完了、諸準備全く整ひました。

本 記

兩殿下には、午後三時五分御着の豫定でありましたが、五分遅れ、午後三

時十分に御召しの自動車は門前に着、原名譽學長の御先導で、觀測室に入らせられ、山本臺長の御説明を聞召されました。

山本臺長は、「當天文臺は東亞天文協會設置のもので、大正十五年十一月二十一日、當地の素封家原澄治氏の特志寄附によつてなつたもので、主として民衆に天文知識を普及せしめ、一方天文研究に努め、年々一萬内外の參觀者がある」旨申上げ、それから陳列品に就いて一々御説明申上げました。

第一に天文臺で撮影しました月の寫眞三枚（昭和五年三月二十日午前一時十分撮影月齡22.0のもの、昭和七年二月十七日午後八時三十二分撮影月齡10.9のもの、昭和五年十一月二十九日午後八時十六分撮影月齡9.0のもの）。次に月食の連續撮影、これは、昭和三年十一月二十七日創立二週年記念式を催しました時、農業研究所前庭に於て山本博士の撮影されたもの、次に黃道光に關するもの四枚（1.昭和五年及同六年申東亞天文協會觀測部にて觀測しました黃道光の頂點分布圖。2.昭和三年二月十九日午後八時十分龜井壽彥氏觀測のスケッチ。3.同年三月十日午後八時五分同氏觀測。4.同年三月十九日午後七時三十分佐藤米茂氏觀測のもの、）星座畫譜三枚（鯨、龍と小熊、蛇と蛇遣ひ）銀河の一部、オリオン星座の暗黒星霧、キネツク彗星、同彗星に伴ふ大流星これは昭和二年六月二十九日午後十一時五十分滿洲奉天で山本博士の撮影されたもの、花山天文臺三十糎赤道儀、英國グリニチ天文臺、米國ヤーキース天文臺、米國キルソン山天文臺二百五十糎大反射鏡の圖、寫眞等に就いて説明され、進んで昭和五年六月十日時の記念日に天智天皇御陵前に於ける参拜行事の寫眞、月面の大寫眞二枚（1.月面の北部インブロス海附近、月面の南部山岳地方）、太陽面の寫眞二枚（1.水素瓦斯の光にて撮影せるもの、2.大黒點群を現出せるもの）、月食連續撮影に依り地球の球形を示す寫眞等を順次説明されました。月面の寫眞のところでは、殿下は圓形のことを指さし給ひ『これは何か』との御質問がありましたので、山本臺長は「月の噴火口、一説には隕石落下によつて生じたるもので、月面には五萬以上もある」旨、御答へ申上げましたら、『月には生物が居るか』との御質問もありました。

次に、當天文臺の生命でありますところの三十二糎反射望遠鏡について、鏡は有名なカルヴァの作で、焦點距離二百五十糎、接眼鏡を變へることに

よつて四十倍乃至六百倍になりますこと、組立はホランド會社でしましたこと、製作年代不明のことなどを説明されましたら、御興深く眺められました。隕石二箇、一は明治四十二年七月二十四日午前6時 岐阜縣武儀郡内に落下したもの、一は大正七年一月二十五日午後二時二十九分滋賀縣東淺井郡速見村大字八日市に落下しましたものについて説明されましたら、兩殿下は隕石を手に取り上げ給ひ、『割合ひに輕きものである』と申されました。山本臺長は「後者が落下しましたとき、京都に於て其の音響を聞かれたこと」を申し上げられました。殿下には去二月十四日ロソツプ島に於ける日食のことを、御質問になりましたので、臺長は同島で撮影されました閃光スペクトルの原板に就いて御説明申上げ、昭和八年十月九日佛國で撮影のジャコビニ流星雨、倉敷天文臺撮影「月」の寫眞三枚の原板をも御目にかけたので、御豫定の十分間を過ぐるゝこと八分間で、農業研究所に向はせられました。

後 記

兩殿下が御退出になりますと、早速跡片付けをなし、山本博士と稻葉學士は、午後五時三十分倉敷發の列車で歸途に就かれましたので、私は岡山驛迄送り、岡山驛で急行を待合す爲め兩氏は下車されましたので、四十分間程、今日の感想、將來の倉敷天文臺に就いて語り合ひました。約十萬圓位を投じ完全なものにし、氣象の一端も觀測し、香川縣高松市、愛媛縣今治市に流星觀測所を設け、倉敷天文臺と連絡して觀測しましたら一層よいであらう等と語り合ひますうちに發車の時が迫りましたので、兩氏は乗車されました。

兩殿下を迎へ奉りましたことは、光榮の至りでありましたが、設備其の他不完全な點は實に汗顔の至りで、將來大に努力して相當のものにせなければなりません。又此度の行啓に就きまして、花山天文臺の方々が非常に御力添へ下さいましたことを厚く々々御禮申し上げます。

廣 島 支 部 だ よ り

昨年レオニヅの觀測準備座談會を開き、其後結果報告の集ひを開いてから冬眠期に入つて居た當支部も久方ぶりで5月16日19h30mより支部例會を開きました。老年組の磯松氏から少年組の和田君まで集る者9名と言ふ盛會ぶり！

眞田氏の挨拶の後、久方ぶりの顔合せなので種々と面白い話が出ました。太陽、地球、月と天空の驚異の9.5m/m映畫を映寫して、雜談後、散會したのは23hを告げんとする頃でありました。

來月から毎月第二水曜日に開く事に決議致しました。6月は磯貝勇氏に郷土の星の傳説と方言に付いてお話願ふ事に成りました。同氏は、野尻先生もお書きになつて居る通り、其の道の大家なので、さぞかし興味あるお話がある事と期待致して居ります、近縣各地の方も御出席を希望致します。場所は市内鷺野橋“湖水”、委細は幹事宛お問合せ下さい。(T.O生)